

村葬(新潟市)



合同慰霊祭が終わると、部落中を練り歩いて墓地へ向かう風習があった。戦争が長く続くにつれ、この光景がたえず見られた。(写真は「新潟歴史博物館」提供)

戦勝祈願(佐渡金井町・昭和15年頃)



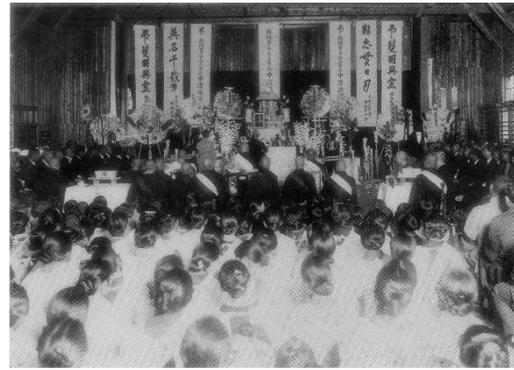
祈願に集まっているのは女と子どもだけ、戦意の発揚には神社が大きな力を発揮した。男は兵隊に。

遺家族慰問演芸会(吉田町 昭和10年代)



出征兵士の一番の気掛かりは家族のことであった。いろんな団体が慰問活動が盛んに行われた。

村葬(横越村 昭和13年頃)



戦死した兵士のため、合同慰霊祭として市葬や村葬が行われた。遺骨

の代わりに石ころや、記した紙片が箱に納められていることもあった。

慰問袋を囲んで(新潟市・昭和18年)



婦人会や学校で盛んに戦地への慰問袋をつくった。中には激励の手紙や、手作り品、腐りにくい食品などが入れられた。

女学生勤労奉仕隊(長岡市・昭和10年代)



食糧事情がひっ迫するなか、女学生たちが校庭や空き地に野菜を栽培した。

(写真4枚は「写真記録にいがた

の女性史』郷土出版社より)